

令和8年3月19日

鹿沼市議会

議長 谷 中 恵 子 様

予算決算常任委員会

委員長 増 淵 靖 弘

## 調 査 報 告 書

本委員会は、令和7年9月29日第4回鹿沼市議会定例会において閉会中の調査付託を受けた事件について、令和8年1月28日から令和8年1月29日に調査を行ったので、その結果を会議規則第44条第2項の規定により報告します。

### 記

調査地及び内容	長野県飯田市	予算決算常任委員会の取組みについて 市民との意見交換・政策サイクルの取組みについて
	山梨県甲府市	予算決算特別委員会の取組みについて 市民との意見交換・政策サイクルの取組みについて

令和8年3月19日

鹿沼市議会

議長 谷 中 恵 子 様

予算決算常任委員会

委員長 増 渕 靖 弘

予算決算常任委員会 行政視察報告書

予算決算常任委員会では、新たに始まる取り組みとしての効果を最大限発揮するため、議会における予算決算審議の先進事例を行政調査したので下記の通り報告します。

記

1 視察日程

令和8年1月28日（水）～1月29日（木）

2 参加者

予算決算常任委員会

委員長 増渕 靖弘

副委員長 早川 勝弘

委員	大島 久幸	関口 正一	横尾 武男	小島 実
	津久井健吉	谷中 恵子	館野 裕昭	佐藤 誠
	阿部 秀実	石川さやか	大貫 桂一	宇賀神 敏
	梶原 隆	藤田 義昭	橋本 修	船生 雅秀
	駒場 久和	橋本 勝浩	仲田 知史	鹿妻 武洋

3 視察先と調査事項

- |            |  |
|------------|--|
| (1) 長野県飯田市 | 予算決算常任委員会の取組みについて<br>市民との意見交換・政策サイクルの取組みについて |
| (2) 山梨県甲府市 | 予算決算特別委員会の取組みについて<br>市民との意見交換・政策サイクルの取組みについて |

## 4 視察内容の詳細

【1月28日（水） 長野県飯田市議会】

(1) 飯田市の概要（令和7年12月末）

○人口：93,555人

○世帯数：40,429世帯

○面積：658.66km<sup>2</sup>

面積の約8割が山地であり、3,000m級の山々に囲まれた盆地が点在し、千曲川・天竜川の清流が流れ「日本の屋根」とも呼ばれる。「東洋のスイス」と称されるほど精密機械・電子機器製造業が経済を支え、豊富な水と肥沃な大地を活かした高原野菜や果物等の農業も全国有数を誇る。首都圏へのアクセスも良く、都市型から田舎暮らしの実現を希望する希望者の移住先としても人気が高い。立地や産業・農業など、鹿沼市と大いに通じるところが見られる。

(2) 調査の背景・目的

長野県飯田市は、「議会改革の取組み」を進める中で、5年前より予算決算常任委員会を設置して先進的に政策サイクル推進に取り組んでいる。当市が新たに予算決算常任委員会を設置して審議を進めるにあたり大いに参考にすべきものがある。

(3) 視察内容

ア) 飯田市が目指す議会のあり方

「暮らし豊かな <sup>あす</sup>いいだの未来を 市民とともに」～市民のしあわせに貢献する議会～の市議会キャッチフレーズを設けて、議会に期待される役割（ミッション）と実現すべき理想的な姿（ビジョン）を共有している。

イ) 政策サイクルの取り組み

議会報告会は、飯田市自治基本条例に規定されている「開かれた議会運営」、また「議会への市民参加の推進」を果たすための取り組みと位置づけ、議会報告会を起点に市民の声を政策づくりに反映できる様に取り組むことを目的とした事業を展開してきた。年々議会報告会への参加者が増加している状況や、市民意識も多様化していることから、さらなる広聴機能の強化が求められた。

飯田市議会が行う広報広聴に関する規定の所掌事務として「議会報告会の企画運営及び市民意見の取り扱いに関する事項」が定められており、予算決算常任委員会として改めて議会報告会の意義を考えた。子育て世代、若者、女性などに対象を拡大した「タウンミーティング」の開催、広報広聴委員会と予算決算常任委員会の連携強化を図る「企画準備会」の設置などで広聴機能の強化を図っている。市民の声をより政策に反映させていきたいという思いから、現在の政策サイクルに整理した。

ウ) 市総合計画の進行管理への取り組み

○「飯田市議会の議決すべき事項を定める条例」の制定

飯田市自治基本条例の議決と同時に、地方自治法第96条第2項に基づいた「飯田市議会の議決すべき事項を定める条例」を制定した。地域経営の根幹をなす市総合計画の進行管理に関与し、議会として責任を持つことを明確化した。

○行政評価の導入

議会による執行機関の活動監視を進めるにあたり行政評価を導入することとした。平成30年より「予算決算審議検討プロジェクト」を設置し、令和元年5月より「飯田市議会 予算決算委員会運営要綱」を施行した。これにより施策目的の達成に向けて、効果的に事務事業が展開されているかをチェックする仕組み=いわゆる「行政評価を活用した決算認定」を行うこととなった。予算決算常任委員会の審査方法として、「政策会議」を設けて、「議会における議案の分野別または包括的な審議の充実及び政策的な課題への対応を図る」としている。

この「政策会議」は、予算決算常任委員会の前期・後期会議の他に、本会議の前、各常任委員会後の予算決算分科会の終了後、本会議終了後に開催されるもので、副議長・各常任委員長・各派代表により構成される検討調整の重要な会議体となっている。

○議会報告会・意見交換会への取り組み

自治基本条例に、市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の開催を通じて、市民に開かれた議会運営の実現に努めると議会報告会の位置づけを明記した。現在は、市内20地区を山間部・里部・市街地部の7ブロックに分けて開催し、広報広聴委員会所管により、飯田市議会と各地区まちづくり委員会(=自治会)の共催により実施している。当日の進行は、全体会と各常任委員会による分科会による2部制で実施し、分科会では常任委員会ごとの報告と、前もって決めたテーマに沿った意見交換が行われる。令和5年11会場に610名が参加し1,065件の意見が出され、令和6年度には8会場に545名が参加し1,240件の意見が出された。集まった意見・要望への対応を検討・決定し、市へ申し送ると共に、常任委員会での調査研究を経て、政策提言に結びつけている。

○今後の課題

議会報告会・意見交換会の見直しや、市民と議会との関わり方について考える必要があり、「改革」から「変革」へ、市民とどう向き合うか、議案への向き合い方等に取り組んでいくとのことである。

(4) 所感

○市内20地区を、山間部や市街地など地域性に分けて議会報告会・意見交換会を開催している点は、地域課題の類似点を整理しやすく、地域性を考慮した政策提言につなげていけるものと思う。

- 政策サイクルの構築に向けて、議会全体と予算決算常任委員会及び広報広聴委員会との連携・役割分担は重要だと感じる。議会報告会・意見交換会の準備と予算決算常任委員会分科会を含めた各常任委員会による進行は、更に掘り下げた意見交換を可能にするのではないかと。また、次なる調査研究活動に繋がるのではないかと。
- 行政評価を活用した決算認定を行う取り組みにより、総合計画の年次での執行審査に繋がっていることは、大いに注目し当市での取り組みについても検討すべき点である。
- 政策会議のあり方について、当市の予算決算常任委員会の制度では理事会にあたる。飯田市では、予算決算常任委員会後期全体会の質疑・討議を前に、分科会の経過や各会派意見及び今後の進行確認などを行うこと、また、本会議最終日終了後にも反省と次への取り組み準備・調整を行うなど、議会全体の運営に貢献しており、当市に置き換えて、試行する意義は大きい。



## 【1月29日（木） 山梨県甲府市議会】

### (1) 甲府市の概要（令和7年12月1日）

- 人口：182,840人
- 世帯数：95,112世帯
- 面積：212.47km<sup>2</sup>

面積の86%が山地であり、甲府盆地を除いて平地部は極めて少なく、鹿沼市の約2倍の人口と世帯数が集中している。果物やミネラルウォーター、ワインなどの一次産業と機械電子・ジュエリー等の製造業が発展し、全国トップクラスの生産量を誇る。近年は水素関連技術の開発も進んでいる。

### (2) 調査の背景・目的

当市が以前設置していた予算、決算の際の特別委員会を組織しているが、各常任委員会

が時間と日数をかけて審議した後、予算、決算の特別委員会を開催している点が、今後の予算決算常任委員会の取組みに大いに参考になるものである。

### (3) 視察内容

#### ア) 予算・決算審査特別委員会の概要

3月に当初予算議案審査を行う「予算特別委員会」が、9月に決算議案を審査する「決算審査特別委員会」が組織される。その際、4つの常任委員会の内、「総務常任委員会」「経済建設常任委員会」が「総務・経済建設分科会」として、「民生文教常任委員会」「環境水道常任委員会」が「民生文教・環境水道分科会」として2つの分科会構成にて審議を行う。「決算審査特別委員会」は、1日目と3日目に「総務・経済建設分科会」が開催され、2日目と4日目・5日目に「民生文教・環境水道分科会」が開催される。6日目には、全体的な決算審査特別委員会として全議員による報告・討議討論・採決が行われる。

#### イ) 議会報告会・意見交換会について

11月以降の日程で随時開催している。参加市民と議員が複数グループに別れて意見交換を行い、報告書として各常任委員会へ報告する。加えて、地元大学や観光協会、社会福祉協議会、ヤングケアラー支援に関わる各種団体等との交流会を設けて、意見広聴の場としている。寄せられた市民の意見は常任委員会にて調査研究成果として、委員長から担当部長へ政策提言を行っている。ただし、各種団体等交流先を絞って開催したことで広く市民の意見を聴く交流会となっていないのではないかと反省点もある。

#### ウ) 政策サイクルについて

議会基本条例に、議案審議に対する効果検証と政策立案した場合の市長への提言が記され、議会政策サイクルを遂行するものとされている。

#### エ) DX化・効率化について

資料配布はタブレット端末を使用し、すべてデータで配布している。その際は一般的な会議システムを使用し年間経費を削減している。また、委員間討議の十分な時間を確保するために、当局からの説明を廃止し、事前に説明文を配布することとした。

### (4) 所感

○4つの常任委員会を2つに集約することで、より多くの議員が審査を行うことになり、より多くの目線で審査するメリットがある一方、これまでより多くの時間を要する。当市では、3つの常任委員会及び部会により専門的に審査が行われることで、効率的に審査内容が深まるのではないかと。

- 議会報告会を定例化していない反面、各種団体との交流会を開催することで、意見・要望の具体性が高まると思われるが、それが偏重しないための工夫が必要となってくるのではないかと。当市ではこれまで鹿沼商工会議所との意見交換会を行ってきたが、各種団体との交流会も協議してまいりたい。
  
- 甲府市での政策サイクルに対する取り組みは見えなかったが、当市での政策サイクルの体系化や議会と予算決算常任委員会と広報広聴委員会との連携手法・タイミング等のシステム化は今後しっかりと構築していきたい。
  
- 甲府市のペーパーレスやDX化に関しては、思い切って一斉切り替えを行った。当市でも今後進めていく課題だと認識しているし、早々に取り組んでまいりたい。甲府市では、紙媒体での資料確認を求める声に関しては、各自がプリントアウトしているとの事であった。これまでの習慣を変革する意識を持ちつつも、システムの使用による使い勝手向上を求めている。



## 5 総括

両市ともそれぞれに特徴を持った予算決算審査の取り組みであった。当初の目的であった「新たに始まる取り組みとしての効果を最大限発揮するため、議会における予算決算審議の先進事例の調査研究」を行うことができた。

私達議員は、「まずはやってみる」という発想をもって、市民の代弁者・代表する者として予算決算の審議を正しく行うために、今回の調査を大いに参考にし、市民から信頼される議会運営を行ってまいりたいと思う。

最後に、私達の行政視察を快く受け入れ、誠実かつ熱心に説明してくださいました両市の職員及び関係者の皆様に深く感謝申し上げ、報告とする。